

熊毛の社会教育

平成二十七年二月発行
熊毛地区社会教育振興会

〈熊毛地区社会教育主要事業実績〉

月	日	曜	事業名	会場	参加者数
5	10	土	地区子ども会指導者・育成者研修会 地区子ども会安全教育研修会	屋久島町総合センター	77人
6	13	金	地区社会教育指導者研修会(PTA・女性・高齢者団体) 地区人権教育ブロック別指導者研修会	中種子町中央公民館	144人
6	27	金	地区文化財保護審議会委員等研修会	屋久島離島開発総合センター	26人
7	25	金	地区子ども会大会・創作活動～26日(土)	西之表市あつぽ～らんど他	70人
10	25	土	地区社会教育指導者研修会(青年団体)～26日(日)	南種子町自然の家	32人
11	22	土	地区広域文化祭～23日(日)	屋久島離島開発総合センター	約400人
11	29	土	県PTA活動研究委嘱公開	南種子町立荃南小学校	約300人
12	13	土	地区子ども会ジュニア・リーダー養成研修	中種子町中央公民館	49人

熊毛地区社会教育振興会では、地域、家庭、学校、行政、関係機関等の連携が更に深まり、熊毛地区の社会教育がますます充実・発展することを願ってリーフレット「熊毛の社会教育」を作成しています。

一・二ページには、地区主要行事を、三・六ページには、一市三町の特徴ある事業等を掲載してあります。

ぜひ御一読いただき、本地区の社会教育のさらなる充実・発展に御理解と御協力をお願いいたします。

子ども会指導者・育成者研修会 子ども会安全教育研修会

平成二十六年五月十日(土)
屋久島町総合センター(七十七人)

屋久島町の子ども会リーダーと育成者・指導者が集い、「子どもたちでつくる子ども会活動」をテーマに研修を行いました。

指導者・育成者研修会では、KYTの指導法や指導者・育成者の役割、活動の方法等について学びました。

また、子ども会リーダーによる安全教育研修会では、カレーライスづくりを通して、食材の買い出しから調理までの過程をすべて自分たちの力で行うなど、主体的な活動の進め方を学びました。



午後からは、合同で屋久島消防分遣所員の指導により正しい応急処置の方法を学んだり、高校生クラブ「ぼんだま」の皆さんから楽しいレクリエーションを指導していただいたりしました。

大人の役割は、子どもたちの活動を陰から支援することです。子どもたちでつくる子ども会活動の一層の推進と充実をよろしく願います。



社会教育指導者研修会 人権教育ブロック別指導者研修会

PTA・女性団体・高齢者団体
人権教育ブロック別指導者研修会

平成二十六年六月十三日(金)
中種子町中央公民館(百四十四人)

種子島地区のPTA及び女性団体・高齢者団体合同で、あらゆる学習活動の基盤である人権について研修をしました。

講話では、NPO法人ネットポリス鹿児島代表の戸高成人氏に「ネット社会の現状と課題解決のための取組」という演題で指導していただきました。パソコンや携帯電話以外にも、無線LANが利用できるスマートフォンやゲーム機等の通信機器、無料通信アプリ等の普及により、ネットによる人権侵害は年々多様化・深刻化しています。子どもたちを守るためには、利用実態の把握やフィルタリングの設定、我が家のルールづくりなどの徹底はもちろん、思いやりの心などのコミュニケーション能力そのものを育成することが大切であるということを学びました。



また、研究協議では、各団体における人権教育の推進について協議し、自分も他人も大切にすること、人権尊重の視点に立った活動の重要性に気付くことができました。



参加したPTAや女性団体、高齢者団体、行政関係者の皆さんが学習したことを実践し、それぞれの立場で広めてくださることを期待します。

青年団体

平成二十六年十月二十五日(土)・二十六日(日)
南種子町自然の家(三十二人)

本年度は初めて一泊二日の宿泊研修を行いました。

各市町の活動報告の後、「魅力ある青年団活動を目指して」をテーマにワークショップ型の研修を行いました。その中で青年団活動の成果や課題について各市町の現状を出し合い、これからの活動の在り方について活発な意見交換が行われました。

また、レクリエーション活動では、子ども会活動などで活用できるキンボールやドッジビーなどを体験しました。夕食のバーベキューを囲んでの情報交換会では、若者らしく深刺とした交流を行うことができました。



会員の確保など多くの課題を抱えながらも、町おこしや仲間づくりなどに懸命に取り組む青年団の皆さんにエールを送ると同時に、さらなる活躍を期待したいと思います。



文化財保護審議会委員等研修会

平成二十六年六月二十七日(金)

屋久島離島開発総合センター(二十六人)「文化財保護行政」について、県文化財課担当者の指導講話の後、中種子町の委員から「種子島の正月行事のコモノ作りと行事」について事例発表がありました。伝統や文化財の価値、これらを伝えていくことの大切さを再認識しました。

あいにくの雨で現地研修視察はできませんでしたが、屋久島町教育委員会文化財担当者から、城ヶ平城跡などの屋久島町の文化財について説明があり、その後、屋久島町歴史民族資料館を見学しました。

今後の各市町文化財保護行政の推進・充実と文化財保護思想の普及・啓発に生かしていただきたいと思えます。



子ども会ジュニア・リーダー養成研修

平成二十六年十二月十三日(土) 中種子町中央公民館(四十九人)

熊毛地区内のジュニア・リーダーや高校生クラブ会員が集い、研修・交流活動を行いました。

各市町の活動報告やしゃべり場では、自分たちの活動の在り方を見直すと同時に、自分の考えを主張したり、他者の意見を尊重することの大切さを学んだりました。また、レクリエーションの研修では、

中種子よいらーきスポーツクラブのインストラクターから指導を受け、自分たちでレクリエーションを企画し、実践する学習を行いました。

今回はマレーシアからの留学生やALTも参加し、国際交流も体験することができました。

県PTA活動研究委嘱公開

平成二十六年十一月二十九日(土) 南種子町立荃南小学校(約三〇〇人) 宇宙に一番近い小学校、荃南小学校で多くのPTA・地域・学校関係者を迎え、盛大に開催されました。

アトラクション

荃南小学校児童による「ひょうたん踊り」が披露されました。子どもたちの滑稽な所作や表情は、参加者の笑いを誘い、和やかな雰囲気になりました。

研究発表・研究協議

荃南小学校PTA研究テーマ「学校のキャッチフレーズ『読書いっぱい』、笑顔いっぱい、あいさついっぱい』を具現化するためにPTAとしてどのような支援をすればよいか」についての研究発表をもとに、学校・PTA・地域が一体となった教育活動の在り方等について協議を行いました。父親も参加する



読み聞かせ会や津波対策の避難経路整備、伝統漁法を学ぶ「鮎汲み」など、少人数の会員ながらも地域の協力を得て、創意工夫して行っている活動は、他校PTAにとっても大いに参考になったことと思います。

講演

元JAXA鹿児島宇宙センター所長の園田昭真氏による講演が行われました。ロケット開発の歩みなどを通して、子どもたちに夢と希望を育むPTA活動の在り方などを学びました。

また、間近に小惑星探査機「はやぶさ2」を載せたHIIAロケットの打ち上げを控えていたこともあり、子どもたちの未来を想い、子育てを振り返るよい機会になりました。

九州地区公民館研究大会 鹿児島大会

平成二十六年八月二十八日(木)・二十九日(金) かこしま県民交流センター他(地区参加者五十五人)

第六分科会「青少年教育」では、南種子町下中地区公民館インギー花峰塾が「留学生がいる青少年育成活動の在り方」をテーマに、ドラメルタン号漂着にまつわる活動などの発表を行いました。「青少年教育と地域活性化は一体である」との考えのもとで、学校と家庭、地域が密接に連携した取組は参加者から称賛を受けました。

また、地区内からの参加者にとっても、九州各地の優れた公民館活動を学ぶまたよい機会となり、今後の活動に生かされることを期待しています。



受賞おめでとうございます

平成二十六年年度各種表彰 ※敬称略

- ◇全国社会教育委員連合表彰 (西之表市) 中野 幸太郎
- ◇日本PTA全国協議会表彰 (西之表市) 屋久島町立一湊小学校PTA(屋久島町)
- ◇全国子ども会連合会表彰 (中種子町) 美座子ども会
- ◇九州地区子ども会育成連絡協議会表彰 (西之表市) 中村 逸夫
- ◇県文化財功労者表彰 (南種子町) 羽生 源志
- ◇県子ども会育成連絡協議会表彰 (中種子町) 西之山子ども会育成会
- ◇県優良少年少女団体・地域高校生クラブ等表彰 (中種子町) 美座子ども会
- ◇南種子町高校生読書ボランティアグループ(びんぐり) (南種子町) 南種子町高校生読書ボランティアグループ(びんぐり)
- ◇高校生クラブぼんだま (屋久島町) 高校生クラブぼんだま
- ◇地区社会教育表彰 (西之表市) 古田獅子舞保存会
- ◇優良団体 (中種子町) 読書ボランティアグループ「そらいろのたね」
- ◇優良個人 (西之表市) 下中地区公民館青少年育成部(南種子町) 永田 義彦 (西之表市) 寺田 いち子 (南種子町) 柄 初男 (屋久島町)
- ◇地区子ども会育成連絡協議会表彰 (中種子町) 地区子ども会育成会
- ◇優良団体 (中種子町) 本村子ども会育成会
- ◇優良個人 (南種子町) 小平山公民館青少年育成部 (屋久島町) 小原町子ども会
- ◇優良個人 (中種子町) 徳永 眞一

【編集・発行】

熊毛地区社会教育振興会事務局 住所 西之表市西之表七五九〇番地 熊毛教育事務所内

電話 (〇九九七) 二二〇五三三 FAX (〇九九七) 二二〇五二二

西之表市

まなびの輪



にしのおもて

熊毛地区子ども会大会開催 そして、鹿屋市との交流会

七月二十五日・二十六日に西之表市で熊毛地区子ども会大会・創作活動が開催されました。あつぽくらんど、浦田海水浴場を舞台に熊毛地区一市三町の子ども会代表者総勢三十七人が参加しました。

「楽しい子ども会にするためには」をテーマとした話し合い活動やグラウンドゴルフを行い、子どもたちは珍プレー・好プレーに盛り上がる中、自然と仲良くなっていました。また、創作活動では「折り紙」を実施し、普段作ることのない難しい作品への挑戦に苦戦していました。

夕食後から就寝までの時間では、元気が有り余っている下級生らの声が高々響くとすぐに上級生が注意していました。このようなやり取りを通して、楽しさだけでなく、集団行動のルールやマナーをしつかり学んでいました。



創作活動「折り紙」の様子



交流会の様子

二日目は鹿屋市子ども会と浦田海水浴場で交流会を実施しました。鹿屋市子ども会は、『鹿屋市子ども会リーダー育成事業 かのやっ子 わくわくアドベンチャーイン種子島』と銘打って、七月二十四日から二十七日の三泊四日の日程で来島しました。熊毛地区子ども会大会も同時期に西之表市で開催されたこともあり、浦田海水浴場にて交流会を行いました。四班に分けて、ビーチバレーやビーチフラッグを行いました。スポーツを通してすぐに仲良くなる様子に子どもたちの成長を感じました。

また、交流会では西之表市連合青年団からたくさんの方の協力をいただき、総勢七十七人の子どもたちの安全を守り、事故やケガ等も無く、無事に交流会を終えることができました。

様々な体験活動を通してふるさとの自然や文化などを学び、また異年齢で交流することで豊かな人間関係や規範意識、社会性を養うことを目的とし、年間十回の活動を計画しています。

今年度は、市内児童二十五人と大人二人で活動しており、十一月の活動では一泊二日の宿泊学習を実施しました。

本市では、平成二十一年度から市内の全中学校が統合され「種子島中学校」が開校しました。今回の活動では、小さな学校から大きな学校への入学に伴う中一ギャップ解消も目的とし、隊員の他、市内小学校五・六年生を対象に追加で参加者を募集し、総勢十九人の児童が参加しました。

ふるさとまなび隊 宿泊学習を実施!

レクリエーションやニュースポーツを通してすぐに仲良くなった児童たちは、協力しながら自分たちで夕食を作りました。二日目は、あつぽくらんど敷地内でスタンブラリーを実施しました。四班に分かれた児童たちは、広い敷地内での活動や各地点の難問に苦戦していましたが、仲間たちと協力しながら各地点をクリアしていきま

最後まで活動をやり遂げた児童たちは、新しくできた仲間への思い、両親への感謝の思いを胸に宿泊学習を終えました。



宿泊学習の様子

西之表市連合青年団の活動

西之表市連合青年団は、現在六十五人（男性二十八人・女性三十七人）で活動しています。

十二月二十四日（水）クリスマススイブに市連合青年団の一大イベントが行われました。その名も『君の家にもサンタクロース！大作戦』有志三十人が集まり、市内の子どもたちに夢とプレゼントを届けました。また、同日には若宮保育園を、十二月二十五日には国上みさき保育園を訪問し、園児たちにプレゼントを届けました。西之表市に子どもたちの歓声と笑い声が響き渡り、充実した活動となりました。

市連合青年団は県内一の団員数を生かして、今後も幅広い活動を目指していききたいと意気込んでいます。



若宮保育園



国上みさき保育園



中種子町



風立のまち なかたね

「なかたねお話会」での読書ボランティアグループの取組

読書は、人類が獲得した誇るべき文化です。読書により我々は楽しく知識を身に付け、物事をより深く考えることができます。本は多様な分野が用意され、簡単に享受でき、しかもそれほど費用もかからないという特色もあります。特に幼児期から読み聞かせをして読書習慣を身に付けさせることは、国語力を向上させるばかりでなく、一生の財産として生きる力ともなり、楽しみの基となるものです。そんな思いで町内の小学校・保育所等を訪問し、貴重な時間を割いてもらい実施している「なかたね読み聞かせ会」は、本年度で十四年目を迎えました。

十四年前は、どの様な形でこの事業を進めて行こうかと試行錯誤し、長い間島外から講師を招聘し実施してきました。しかし昨年、地元読書ボランティアグループの育成も兼ねて、「なかたね読み聞かせ会」で未来ある子どもたちのために一生の財産を与えてくれませんか？」と声をかけたところ、その答えに「ノー」の言葉はありませんでした。快く引き受けてくれたその読書ボランティアグループが、「なかたねおはなしパレット」です。このグループは本校にある四季折々の本



読み聞かせの様子

を選書し読み聞かせをしています。一方では共通語での会話が多くなった家庭で育った子どもたちに、方言のよさや意味を大事にしてもらえようという読み聞かせも取り入れています。種子島の民話はもちろん、通常の児童書を種子島弁で紹介するなど、島の言葉もとても大事にしています。平成十七年結成、地元有志十人程で構成され、毎月第四土曜日に中央公民館図書室で読み聞かせ会を開催しています。活動範囲はそれだけにとどまらず、学童保育の時間を利用した読み聞かせをはじめ、島内あらゆる場所で要望に応じて読書ボランティア活動を展開しています。

視聴覚映像の活用で家庭教育力の向上

納官小学校

ネット社会は急速な早さで普及が進み、その勢いはとどまるところを知らません。使いこなせば便利、しかしその裏には落とし穴が多くあります。そんなネット上のいじめやトラブルに関する予防策の一つとして納官小学校家庭教育学級では、映像を使った講習会を実施しました。参加したのは全保護者・職員、使用した教材は「ぐりぶく・さくら」のスマホ時代のネットトラブル予防教室」です。視聴だけに終わらず、架空の事例を挙げ、内容の問題点や対



研修会での様子

処法についてみんなで研究協議をしました。この映像を活用した成果・課題の中で「子どもたちを取りまくネット環境は、保護者が思っている以上に広がりを見せているため、社会の変化に対応した研修を随時実施すべきである。」など貴重な意見が出され、有意義な研修会ができました。

未来のクリエイターを目指して CGアートワークショップ

平成二十七年十一月開催の第三十回国民文化祭中種子町主催事業「CGアートフェスティバル」にあわせ、ワークショップを開催しました。毎年、作品募集を行い、町民文化祭で表彰式を実施していますが、本町からの出品が少なかつたことから、昨年度から開催しています。

今年度は七月五日に中種子中学校のパソコン室で行いました。コンピューターを使って絵を描くということ、参加者は、はじめはとまどいながらも、操作方法を教えてもらうと、ゲーム感覚で、自由な発想と想像力で思いもよらない作品ができあがってきます。そして、いざ制作になると無駄話もなくなり、集中して作品を仕上げるという状況です。さすがにデジタル機器の操作に長けた児童・生徒たちであると感心しました。なお、できあがった作品は、プリントアウトした後、台紙に張りコンテストに出品しています。



劇団四季『心の劇場』小学生誘致事業

『こころの劇場』は、日本全国の子どもたちに演劇の感動を届けるプロジェクトです。子どもたちの心に、社会問題の根底にある「命の大切さ」「人を思いやる心」「信じ合う喜び」など、生きていく上で大事なことを舞台を通じて語りかけたという劇団四季の思いに賛同していただいた多くの企業や行政の協力を得て実現した事業です。



平成二十六年三月十一日、種子島こりくにおいて、午前・午後の二回公演を実施しました。

午前の公演は、中種子町内の小学校七校の児童及び引率の先生方を含めて五百二十六人が観劇し、午後の公演には、西之表市の全小学校の一部（学年を指定）の児童及び引率の先生方を含めて二百十二人、南種子町の小学校の全校児童と引率の先生方を含めて四百三人が観劇しました。

今回は、桃太郎のその後の世界を、桃太郎の弟、桃次郎が冒険するというお話の「桃次郎の冒険」を上演しました。観劇した子どもたちは、おもしろさと同時に、この劇の趣旨である、外見にとらわれず優しく接すること、信じることの大切さを学ぶきっかけになったようでした。翌日は中種子中学校一年生を対象として、「美しい日本語の話し方教室」を実施しました。



南種子町

心ふれあうまちづくり みなみたね

宇宙へはばたけ 凧あげ大会
子ども会活動の充実

毎年、新年行事として一月の第三土曜日に、JAXA（宇宙航空研究開発機構）の協力を得て、種子島宇宙センターを会場に「青少年育成の日」の活動の拡大や定着を図るとともに、子ども会会員の主体性・創造性・協調性を培い、子ども会活動の充実を目的とした、「宇宙へはばたけ凧あげ大会」を開催しています。

大会当日は、地域からたくさん子どもたちが集い、自分で制作した凧のデザイン審査を受けた後、それぞれの自慢の凧が大空を舞い、親睦と融和を図りながら、大いに賑わう一日となります。

団体の部では、各団体が工夫を凝らした大凧や、連凧、立体凧が空を舞います。



凧あげ大会の様子

会場を大いに沸かせます。

また、地域対抗の長なわとび競争やチャレンジランキング（大豆一〇〇gつかみ・割りばしダーツ・じゃんけん連続勝ち・時間当て）などをしながら、小・中学生はもちろんのこと、幼児から大人まで参加できる趣向を凝らした楽しい催し物も実施しています。



デザイン審査の様子

今後も、子どもたちの夢と希望を育み、凧づくり（創作活動）を通して、子ども会会員の交流を図るとともに、地域・家庭・学校の連携を図っていきます。

交流することで長生き
南種子町高齢者学級

各地区（八か所）の高齢者学級は、地区ごとに開講式を行うことから始まります。どこの地区も年間五回以上の様々な交流活動を実施しており、高齢者同士の交流以外にも、児童生徒に昔の話や遊びを教えながら楽しんでいきます。

南種子町内外の視察研修では、史跡・遺跡等の歴史を学ぶ一方、バスの中では、民謡を歌うなど楽しい遠足でもあります。高齢者のみなさんは、元気で体が動けるうちに、今を大切に楽しんでるのが微笑ましくもあります。また、栄養教室も行事の一つに入れて、食生活にも気を配っています。

交流の中では、いかにして昔話や伝統行事を引き継いでいくかが、これからの私たちの課題であるといえます。



高齢者の陶芸教室の様子

「南種子町緑の少年団」結成
青少年育成活動

南種子町では、平成二十六年十月一日に新たな青少年育成活動の取組として、中学生（団長）一人、小学生六人の合計七人で「緑の少年団」を結成しました。

【目的】
緑とのふれあいを通じて、緑を愛し、緑を守り、緑を育てる心を養うことを目的に活動を行い、団員が広く自然を愛し、人を愛し、自らの社会を愛する心豊かな人間として成長していくことを目的としています。

- ・ 緑への関心を高める
- ・ 緑の中で心身を鍛える
- ・ 集団生活を通して協調性を養う
- ・ 奉仕精神を養う

【活動内容】
結成後、本町で開催された平成二十六年度熊毛地区植樹祭に参加し、式典の中で団紹介をしました。これからも、様々な町・地区行事に積極的に参加する等、活発に活動をしていきます。

また、今

後も継続的に団員募集をし、団の拡大を目指して、明るく楽しい取組を進めていきたいと思えます。

南種子町緑の少年団 結団式



屋久島町

さわやかあいさつ日本一のまち屋久島町

あいさつで心ふれ合う屋久島町

本町は、これまでのあいさつ運動をさらに拡充するために、平成二十四年度に、青少年育成町民会議で「さわやかあいさつ日本一」を目指す取組を決定し、同年九月に推進委員会を設置して、三年間の計画で、運動を展開しています。

特に、昨年度から、町子ども会育成連絡協議会と連携して、あいさつ運動推進看板を製作し、県道や通学路に設置しました。今年度は、五つの単位子ども会に依頼して製作・設置しました。また、あいさつ標語・ポスターやのぼり旗などでも啓発を図っています。

さらに、あいさつ運動に積極的に取り組んでいる団体を優良団体として表彰しています。本運動も三年目を迎え、以前にも増して、地域の中で積極的にあいさつをする姿が増えてきたという声が聞かれるようになってきました。

今後は、町内の様々な団体と連携し、来島者にも積極的にならねばならないと考えるようになっていきました。



原子ども会作成看板

屋久島ジュニア検定

町内の小・中学生が、屋久島の自然、風土、文化、歴史、伝統、産業等に関する知識を幅広く身に付けることで、世界自然遺産の島で暮らしている誇りと自覚をもち、屋久島で生きることのすばらしさを実感することを目的に、平成二十一年度から屋久島ジュニア検定を実施しています。

初回は小中学生十四人の受検者でしたが、五年目の昨年度は、各学校への周知が徹底されたことや高校生の参加により、四百十六人が受検し、合格者も二十四人出ました。

県内には、それぞれの市町村で様々なふるさと検定を実施しているようですが、児童生徒を対象に、出題数が百問の検定をしているのは屋久島町だけのようなのです。

また、今年度から、ジュニア屋久島博士認定要項をつくり、ジュニア検定三回合格者に認定証と屋久杉のジュニア博士認定ストラップを贈呈することにしました。

町では今後、ジュニア検定を屋久島検定に発展させ、成人にも参加を呼びかけ、町民の更なる郷土意識の高揚につなげていきたいと考えています。



歴史民俗資料館夏休み体験活動 (土器拓本・平木割り) を実施

夏休みのイベントとして、屋久島町歴史民俗資料館が、二十一講座(全十二日)の体験活動を企画し、合計百三十四人の親子や一般客を集めました。

土器拓本や平木割り等の六つの体験活動を実施し、平木割りでは、実際に丸太を切るところから始まり、平木に割るまでの体験をしました。丸太をのこぎりで切ったり、平木に割ったりするのにも悪戦苦闘している姿が見られました。



平木割りの様子

また、資料館敷地内にある網代民家(口永良部島の古民家)でライブを実施し、民具の活用法や昔の屋久島について、歌や語りを通じた屋久島学を堪能しました。網代民家には、多くの参加者が集まり、入りきれないほどでした。



網代ライブの様子

屋久島町高等学校

これから親になる世代のふれあい活動 高校生クラブ主催「わんぱくフェスタ」

高校生クラブは、「やんぱくフェスタ」を毎年開催しています。この活動は、高校生クラブが、主体的に企画・運営しており、多くの子どもたちが参加しています。



バルーンアート作品制作

会場では、子どもたちと高校生が体育館内を元氣いっぱい走り回りながら、色々なレクリエーションを楽しんでいます。また、メインの体験コーナーでは、自分で作るバルーンアートや紙飛行機飛ばしなど、異年齢の交流にもなっています。最後に、自作のビンゴゲームで参加者全員に賞品が贈られ、高校生と子どもたちの和やかなふれあいの場となっています。

また「これから親になる世代」の子育て教育事業の一環としても捉えており、子どもたちに言って聞かせるのが難しかったという感想を述べた高校生もいました。短い時間で、「子育て」の大変さを感じ取った高校生も多数いました。



子どもたちとふれあう高校生